

■「仙台市遊びの環境の充実に向けた取組方針」について

本市では、こどもたちを取り巻く社会環境の変化を踏まえ、こどもの育ちの原点である「遊びの環境の充実」を「すこやか子育てプラン2020」(計画期間:令和2～6年度)の基本施策に位置づけ、様々な取組を進めてきたところであり、今般新たに策定した「せんだいこども若者プラン2025」(計画期間:令和7～11年度)においても、引き続き「遊びの環境の充実」を基本施策として位置づけている。

加えて、これまでの調査・研究、実証実験等の結果や遊びや体験の重要性も踏まえ、遊びの環境の充実に向けて更なる取組を進めるため、本市の取組の方向性を「仙台市遊びの環境の充実に向けた取組方針」(以下「取組方針」という。)として、令和7年3月にとりまとめている。

取組の基本理念

都市個性を生かした、こどもの育ちと子育てを支える遊びの環境の充実

自主性や創造性を育むなど、こどもの育ちにおける遊びの重要性に加え、親子の楽しい交流の創出など、子育てを支える上での遊びの意義も踏まえ、自然と都市機能が調和する本市の都市個性を最大限に生かしながら、こどもが様々な遊びに触れることができる環境づくりを進める。

基本的な視点

身近な場所での遊びの充実

公園や児童館など、こどもにとって身近な場所については、利用頻度の高い遊び場として重要である。こどもの身近な場所での遊びの機会創出は、こどもの居場所づくりにも資する取組である。

こどもが安全・安心に遊ぶことができるコミュニティを目指した地域連携の取組や、市民団体等が実施するプレーパーク活動の普及や展開など、こどもにとって身近な遊び場である学校・児童館・公園等における遊びの環境の充実を推進する。

多様な主体との連携や都市資源を活用した遊びの充実

本市は山・川・海などの豊かな自然を有しているほか、のびすくをはじめとした子育て支援拠点や児童館、社会教育施設、民間事業者といった多様な主体が、こどもの遊びや体験の機会を提供しているなど、様々な都市資源を有している。

自然を活用したプレーパークの普及啓発や活動団体の支援、庁内外の様々な取組の情報発信の強化など、多様な主体との連携や都市資源の活用を図ることで、遊びの環境の充実を推進する。

都市の魅力を向上させる遊び空間の充実

自然を活用した遊びの充実や、大型の屋内遊び場の整備など、子育て家庭の多様なニーズを踏まえた取組を進め、こどもの育ちと子育てを支えることで、遊びの環境の充実を通じた「子育てが楽しいまち・仙台」の実現に向けた取組を進めていく。

主な取組

プレーパーク活動の推進

自然を活用した遊びの充実

既存の施設での遊びの充実

こどもが楽しめる公園づくり

情報発信の強化

大型の屋内遊び場の整備

■「取組方針」における屋内遊び場の整備について

整備についての考え方

- こどもの遊びを取り巻く環境の変化に対応し、遊び場に対する子育て家庭の多様なニーズに応えることは、こどもの健やかな成長を支えるとともに、「子育てが楽しいまち・仙台」の実現を図る上でも重要であることから、大型の屋内遊び場についても整備が必要である。
- 本市においては、児童館やのびすくなど、屋内で遊ぶことができる施設を多く整備しているほか、多様な社会教育施設など、屋内におけるこどもの体験活動につながる施設も多い。加えて、本市からアクセス可能な近隣の自治体においては、様々な大型の屋内遊び場の整備が行われている状況もある。そのため、本市において大型の屋内遊び場の整備に取り組む上では、こうした施設との役割の違いなども考慮しながら、都市個性や都市の魅力を生かした、仙台らしい取組としていくことが重要となる。

整備候補地の選定

本市が目指す屋内遊び場の整備に向けて、以下の要件を満たす場所として、西公園南側区域の多目的広場が候補地として最も適すると判断した。

- 大型の屋内遊び場が設置可能な広さがあること
- 市全域からの利用が見込まれ、地下鉄の駅に近いなど公共交通の利便性が高い必要があるため市中心部にあること
- 自然を活用した屋外の遊びと連続性をもった施設にできること

整備候補地の特性

- 西公園における位置づけ
自然と都市の共生やにぎわいづくりといった点で、西公園再整備基本構想の方向性とも合致する。
- 外遊びの連続性
隣接するエリアでは、「遊びの広場」としてインクルーシブ遊具等の整備が予定されているほか、広瀬川河川敷にはせせらぎ水路が整備されており、水遊びが可能な親水空間となっている。
- 遊び場としての親和性
候補地の北側には地下鉄東西線の高架橋の下部を活用したプロムナードが整備されており、屋根付きの屋外空間として利用可能であるほか、間近を走る地下鉄を見ることができる。

■ 屋内遊び場の整備について ① 進め方

- 令和7年度は、整備に向けた基本計画を策定し、令和8年度以降に設計・工事を行うことを目指します。
- 庁内で関係部局が連携し検討を進めるほか、専門的な知見を有する有識者、こどもや子育て家庭の皆様、子育て支援に関わる団体の方などからのご意見を伺いながら、検討を進めていきます。
- 日々成長するこどものための施設であることを踏まえ、可能な限り早期の供用開始を目指していきます。

【参考】令和7年度の主な取組状況

- 小学生以下の保護者等を対象としたアンケート（5/15～6/13）
- 「こどもいけん広場」でのこども向けアンケート（6/16～7/7）
- 各種審議会・関係団体への説明・報告
- シンポジウム（7/19開催予定）



■ 屋内遊び場の整備について ② 基本計画の構成(案)

第1章 基本的事項について

基本計画の策定趣旨／基本計画の位置づけ／上位計画・関連計画等

第2章 整備計画地の特性

屋内遊び場としての適性／敷地の概要

第3章 類似先行事例の調査

先行事例の概要／先行事例を踏まえた近年の施設整備の傾向

第4章 本施設に関するニーズ

保護者の意見／こどもの意見

第5章 施設整備方針

基本理念／コンセプト／施設の位置づけ／ターゲット／基本的な機能・実施事業／アクセス環境

第6章 施設計画

施設配置／施設規模／諸室計画／諸室に求められる性能／ユニバーサルデザイン・安全配慮／イメージ図／配置計画／平面計画／外構計画／動線計画

第7章 整備・管理運営手法

整備手法・工程／管理運営手法／概算事業費と財源

第8章 利用情報

開館日・時間／定員／年間の想定来場者数／利用料金

【巻末】 参考資料

■ 屋内遊び場の整備について ③ 基本計画に掲げる施設の基本理念(案)

広がる遊びと、かがやくこどもの未来 ～笑顔あふれる杜の都の遊び場～

- 遊びはこどもの成長の原点といえるものであり、遊びの環境の充実は、こどもの豊かな成長に欠かせないものです。
- 本施設は、本市における、遊びの環境の充実に向けた取組の中で、大きな役割を果たすものです。
- 多様で自由な遊びが広がり、それが、こどもの健やかな成長を支え、こどもたちの明るい未来を広げることにつながる施設となることを目指します。
- 加えて、立地場所である西公園は、本市の豊かな自然を象徴する広瀬川が近くを流れるとともに、都心部と青葉山エリアという、本市の都市個性が際立つ魅力あるエリアの結節点にあり、「杜の都」を象徴する場所であるといえます。
- 仙台らしさを感じられるこの場所で、屋内と屋外で連続性を持った遊びや、周辺施設と連携した多様な体験や学びが創出され、こどもたちを中心に、笑顔があふれる遊び場となることを目指します。

■ 屋内遊び場の整備について ④ 基本計画に掲げる施設のコンセプト(案)

● 遊びが広がる施設

- 空間を面的に生かして、スペース全体を自由に駆けたり、跳ねたり、登ったりといった大きな動きや多様な運動が可能な空間や遊具を整備します。
- エリア内に大型の遊具が整備されることや、近くを広瀬川が流れるといった立地上の特性を最大限に生かすために、屋内と屋外の連続性を意識することで、屋外での遊びを楽しむことにもつながる施設とします。
- 遊びを通して得られるこどもの成長機会を大切にします。発達段階に応じた遊具をバランスよく配置するほか、決まった遊び方がなく、成長に伴い遊びが変化する遊具や、利用目的に応じてレイアウトを変更することができる可動性の高い空間や遊具の整備を進めます。
- こどもの多様な興味や関心に対応し、年齢や発達段階、障害の有無にかかわらず、多くのこどもたちが自分らしく遊ぶことができる施設とします。

● 体験や学びの機能を重視した施設

- 季節ごとの体験プログラムなど、この施設を通して体験や学習の機会につながる豊富なソフト事業を実施していきます。
- 多様な活動に対応可能な汎用性の高いスペースを整備するほか、学校の団体利用に対応するプログラムを創出していきます。

■ 屋内遊び場の整備について ④ 基本計画に掲げる施設のコンセプト(案)

● 親や同伴者も満足できる施設

- ・ 安全に遊ぶことができる遊具の適切なスペースの確保のほか、死角の少ない見通しのよい空間を確保します。また、専門知識をもつスタッフを配置した施設運営を行います。
- ・ 子育てに関する情報提供や、周辺施設との連携事業も含めた親子で楽しめる取組を実施していきます。

● 仙台らしさを感じられる施設

- ・ 仙台中心部からの優れたアクセス性を有する自然豊かな都市公園のなかで、こどもたちが本施設での遊びやこの空間全体で過ごす時間を通じて、仙台らしさを感じられる施設とします。
- ・ 本市の遊び場を象徴し、市全域からの利用を見込むことのできる施設整備を行うほか、本市が推進してきたプレーパーク活動の積極的な情報発信などを通して、遊びの拠点施設としての機能を担う施設とします。

● 多様な人が訪れることができる施設

- ・ 本施設を利用する方のほか、公園を利用する方の利便性の向上につながる機能や設備を備えた施設とします。
- ・ 都心部と青葉山エリアの回遊性向上に資する賑わいの創出や、アクセス環境の整備を行うことで、子育て家庭のみならず、多様な人が訪れ、こども・子育てを身近に感じることができる施設とします。

■ 屋内遊び場の整備について ⑤ 基本計画に掲げる施設の位置づけ・ターゲット(案)

● 施設の位置づけ

- 児童福祉法との関係においては、児童厚生施設(法第40条)に位置付けることを検討していきます。
- 都市公園法との関係においては、教養施設(法第2条第2項第6号)のうち、体験学習施設(施行令第5条第5項第1号)に位置付けることを想定しています。

● ターゲット

- 本施設は、主に仙台市内に住むこどもたちに遊びを通じた健やかな成長の機会を提供するための施設です。メインターゲットは、遊びを通して、発達の基盤を築くことが特に求められるとされる「乳幼児から小学生」とします。
- こどもの同伴者として一緒に施設を利用する子育て世帯や保護者の利用意向にも応えるほか、多くの人を利用したり、訪れることのできる設備や機能についても検討していきます。